

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530638

研究課題名(和文) 東アジアにおける越境的なリージョナル放送空間の基盤構築のための実践研究

研究課題名(英文) Practical research for establishing the foundation of the trans-border regional broadcast space in East Asia.

研究代表者

玄 武岩 (HYUN, Mooam)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：80376607

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、メディアコンテンツの流通における生産および受容の二つの側面から、東アジアにおける越境的な放送空間の構築について実践的に考察した。生産面においては、2001年に始まった「日韓中テレビ制作者フォーラム」に直接かかわりながら調査を行い、その意義と可能性を考察した。受容面においては、東アジアにおける大衆文化コンテンツの越境を、産業、文化、消費、歴史認識など包括的なアプローチをとおして考察し、その過程における排除と変容、現地化と再創造の文化的意味を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research considered construction of regional broadcast space in East Asia from two side of the production and acception in circulation of media contents. In the production side, the research examined the meaning and possibility of the TV Program Producer Forum in Japan-Korea-China started in 2000 with direct relation. In the acceptance side, the research clarified trans-bordering of the popular culture in East Asia through a comprehensive approach like industry, history, consumption and identity and explored the cultural meaning of exclusion/transformation and localization/re-inventing in the process.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：東アジア リージョナル放送 メディア文化 ナショナリズム 越境

1. 研究開始当初の背景

昨今の竹島や尖閣諸島をめぐる日韓、日中の対立が示すように、東アジアでは国益を重視した報道が一般的で、それが冷静な対応を促すよりも対立を助長している。このように政治的・文化的な一体性が乏しい東アジアでは、地域の共通する利益やそれに符合する観点は存在しにくい。各国の国益にそった論調が地域独自の公論よりも優勢なこの地域では東アジア独自の観点を持つことが困難な状況で、むしろ国家の論理の優先するナショナル・メディアの越境的な展開によって葛藤と対立が浮き彫りになっている。

にもかかわらず、この地域には共有する将来のビジョンを探り、未来への共通利益を創出していく政治過程と経済的・文化的交流が求められ、そのためにも域内の相互理解を増進し信頼関係を構築するアジアの視点を反映するメディアが必要となる。その将来的課題は、ナショナル・メディアを乗り越え、東アジアの安定と相互信頼を醸成することで地域のアイデンティティを育むリージョナル・メディアを設立することである。

2. 研究の目的

こうした背景のもと、本研究は、対立と分裂を助長するナショナル・メディアを乗り越えて、地域の安定と相互信頼を醸成することで共通のアイデンティティを育むリージョナル放送空間の構築を将来的課題とし、そのための理論的根拠を提示することにした。すなわち、東アジアの越境的なリージョナル放送を実現していくうえで生じる問題点について検討し、政策・文化・コンテンツなどの諸側面からその基盤構築のための具体的な解決に向けて分析することで、その将来像を示すことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、放送現場や番組制作者の議論の場をフィールドにして、東アジアの越境的なリージョナル放送が成立する条件および課題、形態やその公共的性格についての理論的・実践的に取り組むものである。それは、メディアシステムの問題だけでなく、地域の国際政治や人的・文化的変動のなかでグローバル化する将来を見据えながら考察しなければならない。

したがって本研究では、第一に、日本、韓国、中国3カ国の放送制作者が持ち寄った番組について議論し、それぞれが直面する社会問題や番組表現上のテクニクなどについて語り合う、2001年に始まった日韓中テレビ制作者フォーラムに注目した。同フォーラムは、今後東アジアにおけるリージョナル放送を構築するうえで重要な意義を有している。本研究は、こうした番組制作者の議論の場をフィールドにして、参与観察およびインタビュー調査、アンケート調査を行った。

第二に、制作者だけでなく受け手の立場か

らもそのリージョナル放送という公共的な意義を捉えるため、日中韓で立ち位置が異なる社会的・政治的問題、たとえば「非核」「炭坑」「企業の不祥事」「家族像」という4つのテーマを定め、この地域における情報コンテンツ流通のさまざまな側面を東アジアの公論形成という視点から体系化することを試みた。

こうした越境的対話の可能性を考察するため、東アジアにおける大衆文化コンテンツの越境をメディアフローとしてとらえ、産業的な視点や歴史文化的な視点、歴史認識や社会性など価値観の表現や消費からの視点など、多岐にわたる領域をカバーする包括的なアプローチをとおして、その過程における排除/変容、現地化/再創造の文化的意味を問いつつ、共通の体験と価値観を反映する番組のあり方について模索した。

4. 研究成果

東アジアのメディアコンテンツの流通における生産および受容の二つの側面からアプローチした本研究は、おおむね順調に研究成果を達成することができた。

日韓中テレビ制作者フォーラムの実践についての調査は、2010年蘇州大会から継続的に参加して調査を実際した。2011年には、本研究グループが中心となって同フォーラムの札幌大会を共同開催した。このようにメイン・フィールドの同フォーラムに積極的に参加することで、東アジアにおける番組交流と共同制作をめざす放送番組制作者の意識および実践について考察し、それぞれの番組の特徴、表現のスタイル、社会問題への取り組み方など、3カ国の番組が集まることに見えてく諸問題を体系的に整理し、同フォーラムの可能性についての視座と成果を順調に蓄積している。

さらに本研究では、ドラマやアニメなど東アジアで流通する大衆文化のテキスト分析や受容者分析をとおして、東アジアのリージョナル放送に向けて相互理解と共通の利益を創出する番組のあり方や、中国や韓国におけるコンテンツ流通の現状や国家的な戦略について明らかにする成果を得ることができた。

個別の分野における映像・番組の受容の問題においては、「核」「炭坑」「企業不祥事」(環境)「家族像」をもって設定したテーマについて、研究発表(玄「反核の思想と無思想 - 韓国における「原爆」体験のゆがみ」)や論文執筆(玄他「越境する ホームアニメ - 東アジアにおける『ちびまる子ちゃん』の家族像」)上映会(「炭鉱、日本と中国をつなぐもの」および「東アジアメディア文化交流プロジェクト」)等をとおして直接・間接的にその解明に取り組んできた。

こうした成果は、本研究の集大成として2013年11月2日に北海道大学にて開催した

国際シンポジウム「越境するメディアと東アジア」をとおして公開された。東アジアにおけるリージョナル放送をめざす学術的研究の動きは、メディア・ジャーナリズム研究においても、国際政治学の東アジア共同体論においても皆無に等しく、同シンポジウムは本科研プロジェクトの総括であり、本格的な東アジアリージョナル放送の実現に向けた第一歩といえる。

本研究の遂行中の 2012 年夏には、領土や歴史問題をめぐり対立と緊張が高まることで、国益を重視した報道が目立ち、ジャーナリズムの領域においては越境的な報道がきわめて困難であることも浮き彫りになった。こうした緊急の事態に対応して、同年 11 月には、尖閣諸島・竹島をめぐる東アジア情勢が大きくゆれるなか、慶應義塾大学で領土問題とメディア報道に関する国際シンポジウム「領土をめぐる日中韓摩擦とメディア」を開催した。ここでは、研究者とジャーナリスト、放送人が集い、領土問題に対する日中韓メディアの問題を指摘するとともに、ナショナリズムを乗り越える報道のあり方について議論した。

このように 3 年間の共同研究をとおして、越境的なリージョナル放送構築のための理論的・実践的課題を抽出し、番組の内容と制作者の意識という二つの側面においてリージョナル放送の設立に向けた基盤構築を行ってきた。

東アジアリージョナル放送の設立には、本研究で明らかになったように、日中韓の対立が東アジアの政治・経済・社会に多大な影響を及ぼすだけに国益を相対化するチャンネルとしての存在的意義が重大であるにもかかわらず、それぞれの政治システムや放送環境、番組制作のスタイルにより大きな障壁が立ちだかっていることが見えてきた。こうした問題を踏まえ、グローバルな視点で各地のリージョナル放送の実態を参考しつつ、東アジアにおけるリージョナル放送に適したモデルの開発が今後の課題になるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

玄武岩「サンフランシスコ体制の転換と韓米日疑似同盟」『黄海文化』83 号、2014 年、pp.34-64、査読無

玄武岩「越境するアニメソングの共同体 - 日本大衆文化をめぐる韓国の文化的アイデンティティとオリジナルへの欲望」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18 号、2014 年、pp.25-47、査読有

<http://hdl.handle.net/2115/55174>

芳賀恵・金周英・玄武岩「リメイクドラマから見る日韓ドラマの『社会性』 - 「ハケンの品格」(日)と「職場の神」(韓)を

題材に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18 号、2014 年、pp.69-90、査読有 <http://hdl.handle.net/2115/55172>

金成政「否認する『禁止』と主体なき『検閲』 - 戦後日韓の文化越境をめぐる理論的考察」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』18 号、2014 年、pp.5-23、査読有 <http://hdl.handle.net/2115/55175>

渡辺浩平「中国文化産業の『越境』の意味すること」『境界研究』特別号、2014 年、pp.41-54、査読有

渡辺浩平「『文化強国』を担うメディア産業 - 自由な報道への渇きも広がる」『Journalism』278 号、2013 年、pp.65-71、査読無

玄武岩「領土問題とジャーナリズム - 『国益』を越える東アジアリージョナル放送の構想へ」『現代思想』2012 年 12 月号、pp.201-215、査読無

玄武岩「韓国の放送ストライキと『公正放送』」『世界』2012 年 10 月、pp.278-284、査読無

渡辺浩平「『反日』暴動はなぜ起きたか - 中国メディアの尖閣報道を読む」『Journalism』269 号、2012 年、pp.60-69、査読無

玄武岩・張慶在・金春玉他「越境する「ホームアニメ」 - 東アジアにおける『ちびまる子ちゃん』の家族像」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』15 号、2012 年、pp.57-77、査読有

<http://hdl.handle.net/2115/50271>

[学会発表](計 10 件)

鈴木弘貴・綿井雅康「世界 13 か国におけるグローバルジャーナリズムのオーディエンス調査分析 - 誰が、何を、何のために視聴しているのか」日本マス・コミュニケーション学会・2013 年度秋季研究発表会、2013 年 10 月 26 日、上智大学

芳賀恵・金周英・玄武岩「リメイクドラマから見る日韓ドラマの『社会性』 - 「ハケンの品格」(日)と「職場の神」(韓)を題材に」韓国言論学会、日本マス・コミュニケーション学会第 19 回国際シンポジウム、2013 年 8 月 31 日、韓国・成均館大学 Sungmin Kim, 'Bordering Culture and Feeling the Nation: Mass Media and Development Dictatorship in South Korea', IAMCR(International Association for Media and Communication Research), June 26 2013, Dublin City University, Dublin, Ireland

玄武岩・上ノ原秀晃「脱政治化のなかの選挙 - 2011 年ソウル市長選と大阪市長選におけるメディア戦略と市民社会の行方」韓国日本研究団体第 1 回国際学術大会 / 韓国日本学会第 85 回学術大会、2012 年 8 月 24 日、韓国・淑明大学

村上雅通・崔銀姫・渡邊浩平「東アジアに

おけるメディア交流の可能性と課題」日本マス・コミュニケーション学会 2012 年春季研究発表会、2012 年 6 月 3 日、宮崎公立大学

玄武岩・今野勉・林健嗣・今井義典・鈴木弘貴「東アジアにおける越境的なリージョナル空間の構築 日韓中テレビ制作者フォーラムの実践から」日本マス・コミュニケーション学会 2011 年春季研究発表会、2011 年 6 月 12 日、早稲田大学

〔図書〕(計 2 件)

玄武岩『コリアン・ネットワーク - メディア・移動の歴史と空間』2013 年、北海道大学出版会、466 頁

渡邊浩平編『中国ネット最前線 - 「情報統制」と「民主化」』(『2012 年、蒼蒼社、180 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

玄 武岩 (HYUN, Mooam)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授
研究者番号：8 0 3 7 6 6 0 7

(2)研究分担者

渡邊 浩平 (WATANABE, Kohei)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授
研究者番号：5 0 3 3 3 6 3 8

金 成玟 (KIM Sungmin)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授
研究者番号：6 0 6 0 0 4 2 6

鈴木 弘貴 (SUZUKI, Hirotaka)
十文字学園女子大学・人間生活学部・教授
研究者番号：4 0 3 3 7 6 3 9

崔 銀姫 (CHOI, Eunhee)
佛教大学・社会学部・准教授
研究者番号：3 0 3 6 4 2 7 7

(3)連携研究者

(0)

研究者番号：